

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	協働の「地域づくり大学校」事業（泉区まちづくりみらい塾）	
事業の実施者	団体等	泉区まちづくりみらい塾 認定NPO法人市民セクターよこはま
	行政	泉区役所区政推進課
事業の目的	<p>連合自治会町内会、各自治会町内会、地区経営委員会、NPO、学校・地域ボランティアなどで活動する地域まちづくりの活動者やこれから地域活動を始めてみようと考えている方が、多様化する地域課題などを考え、協力し合いながら解決する力を身に着ける。</p>	
事業の内容	<p>講義、グループワーク、現地見学会を通じてまちづくりの実践を学ぶ</p> <p>第1講 開講式・オリエンテーション（台風接近に伴い中止）</p> <p>第2講 現地見学ツアー</p> <p>第3講 現地見学会（市内3箇所）</p> <p>第4講 見学報告・チャレンジプラン作成</p> <p>第5講 チャレンジプラン発表・卒業式</p>	
役割及び責任分担等	別紙のとおり	
実施期間	令和2年6月2日～令和3年3月31日	

記入日	令和3年3月31日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等名：泉区まちづくりみらい塾 ・記入責任者 氏名：塾長 佐久間 幹雄
	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等名：泉区役所 ・記入責任者 氏名：区政推進課地域力推進担当課長 栗竹 史明 連絡先：800-2325
	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等名：認定NPO法人市民セクターよこはま ・記入責任者 氏名：吉原 明香 連絡先：222-6501

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

① 事業計画段階

		みらい塾	セクター	泉区役所
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	B	B
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	B	A	B
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A	A

② 事業実施段階

		みらい塾	セクター	泉区役所
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	B	B	B
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	B	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B	A

③ ふりかえり段階

		みらい塾	セクター	泉区役所
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合っ、確認する事ができたか。	A	A	A
4	期待された事業成果を得ることができたか。	A	B	B

2 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ＜共有できたこと＞ <ul style="list-style-type: none">・事業の目的や目的に沿ったプログラムの内容、講師の選択、日程、回数、時間など、十分に話し合っ て企画を考えることができた。・講座の後半は緊急事態宣言下で集まることが出来なかった会もありましたが、自治会・町内会、NPO、 行政など、多様なメンバーによる人材のネットワークを活かし、テーマ毎に適切な講師をお呼びし、講 座・現地見学会を開催する事ができた。 ＜認識に違いがあったこと＞ 特になし。
【今後改善が必要と思われること】 <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍で活動が停滞してしまっている方も多いため、講座終了後、受講生の活動（地域 活動等）についてのアンケートと、活動のフォローアップについて検討する必要がある・講座の内容が、地域の情勢や区民の求めるものに合った内容になるよう検討する必要がある。・受講生の年代や性別の幅が広がってきたのでテーマ検討が重要になる。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ＜共有できたこと＞ <ul style="list-style-type: none">・オンラインを取り入れることで、コロナ禍においても受講を続けられる体制をつくることができた。 また選択式の現地見学会を実施する等、参加者の意見を反映し参加者が共感できるような講師を選択、 実際の活動に活かせるようなプログラムを組むなど、三者で共有することができた。・講座前にタイムスケジュールや役割分担の確認のための詳細な打ち合わせを行い、全体的な流れの共 通認識、役割認識ができており、そのため当日も状況に合わせて柔軟に対応することができた。 実施回の振り返りや次回以降のプログラムについて適宜意見交換し、方向性やプログラムの詳細につい て共有することができた。・第4講後に個人面談を行ったことにより、より実践的なチャレンジプランを企画していただくことが できた。 ＜認識に違いがあったこと＞ <ul style="list-style-type: none">・当日の資料作成や準備物品などの詳細な部分について、現状では役割分担ができてはいるが、年間スケ ジュールの作成や文書でのやり取り等、改善の必要性に対して認識の差があった。

【今後改善が必要と思われること】

- ・運営上、詳細部分までお互いに情報共有ができるように、綿密な連絡体制の構築と記録として残すことが必要である。
- ・卒業後、受講生の活動（地域活動等）についての追跡調査と、他組織と連携した活動のフォローアップ、支援体制について検討する必要がある。

事業の成果

（協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。）

- ・泉区まちづくりみらい塾は、実際に地域で活動してきた経験を活かし、地域に密着した実践的なプログラムを組むことができた。
- ・市民セクターよこはまは、プログラム全体の進行や、オンライン準備、ワークショップ実施、資料作成、会場手配等の講座運営、見学先調整等に通じており、効率的な運営が実施できたとともに、蓄積された情報やこれまでの活動経験から、みらい塾役員と共に検討した企画を効果的に実現することができた。
- ・泉区は、泉区まちづくりみらい塾、市民セクターよこはまとの調整をはかり、それぞれの良さを発揮した運営を行うことができた。また、区内に限らず区外も含めた情報をもとに、コロナ禍を踏まえた地域活動事例等をプログラムに取り入れることができた。
- ・参加者からは、受講者同士や区内・区外の活動者とのつながりができ、今後の活動に生かせる、という声や、講座で学んだことを活かして、実際に活動を始めたり、既存の活動の中で工夫したり今後取組を進めていきたいといった声が聞かれる。

自由記入欄

- ・来年度は10周年となるため、過去の受講生と連携して事業が実施できるとよい。